

授業科目	生涯学習概論	単位数	2	担当教員	松尾 信子
講義の内容	<p>今日では、生涯学習の重要性が増しており、人びとはさまざまな機会と方法で、生涯にわたって自発的に学習することが求められています。この講義では、生涯学習の概念が生まれた歴史的背景、そして、なぜ現代社会において生涯学習が必要なのか、ということについて学びます。また、これから地域の生涯学習推進の中核的な拠点となるのが図書館です。ですから、図書館司書が学習者の援助や指導を行う上で不可欠な知識や考え方についても理解を深めます。</p>				
到達目標	<p>この講義では、次の3点を到達目標にしています。</p> <p>① 生涯学習の理念や意義を理解し、専門用語を用いて自分の考えを述べる。</p> <p>② 自己の生涯学習プランを作成する。</p> <p>③ 図書館司書の役割を理解し、学習者への支援について考える。</p>				
授業計画	第1回	オリエンテーション（授業のやり方・受講者の心構え・メールを利用したレジュメの発信とレポートの提出方法・採点方法などの説明）			
	第2回	生涯学習の理念と歴史			
	第3回	生涯学習推進のための行政の役割と支援体制			
	第4回	生涯学習の課題と学習の内容			
	第5回	成人教育学の動向と成人教育の方法			
	第6回	【個人ワークと発表】生涯学習の理念や意義について、専門用語を用いて自分の考えを述べる			
	第7回	生涯学習の実践事例（1）			
	第8回	生涯学習の実践事例（2）			
	第9回	【個人ワークと発表】自己の生涯学習プランを作成し、発表する			
	第10回	生涯学習のための施設と各施設の専門職員（1）			
	第11回	生涯学習のための施設と各施設の専門職員（2）（司書、学芸員等の役割と専門性）			
	第12回	【グループワークと発表】図書館司書の役割を理解し、学習者への支援計画を作成し発表する			
	第13回	生涯学習施設におけるボランティアの意義とその学び			
	第14回	生涯学習・生涯教育の計画化			
	第15回	授業の総括と演習（発表と意見交換）			
授業に対する予習・復習	予習：	レジュメは毎回インターネットで配信しますので、事前に印刷して、必ず目を通してから授業に参加してください。	復習：	授業の中でレポート課題や演習課題について説明し、課題の提出（発表）を求めます。課題を通して復習を行います。	
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない</p> <p>筆記試験（40%）、発表（40%）、授業態度（20%）</p>				
教科書					
参考文献	そのつど指示します。				
注意事項	<p>1. 時間厳守です（始業時間に遅れて教室に入らないでください）。</p> <p>2. レジュメやレポート課題は毎回インターネットで配信しますので、講義の際に忘れずに持参してください。</p> <p>3. 授業は毎回、演習やグループワークを取り入れた全員参加型ですので、楽しく活発な授業内容になるように協力してください。</p>				

授業科目	図書館概論	単位数	2	担当教員	矢代 寿寛
講義の内容	図書館の機能や社会における役割について講じます。歴史と現状について概観し、種類とそれぞれの利用者ニーズ、図書館員の役割、類縁機関との関係、今後の課題と展望について解説します。これまでのイメージを刷新し、職場としての図書館、社会の中の図書館という観点を獲得することを目指します。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館についてのイメージを改める ・大学生以降の人生の中での図書館と自分のかかわりを考えられるようになる ・他人に図書館のことを説明できるようになる 				
授業計画	第1回	履修案内、科目説明、図書館業務との関係			
	第2回	図書館の現状			
	第3回	図書館の社会的意義			
	第4回	図書館と知的自由			
	第5回	図書館の歴史1：世界の図書館			
	第6回	図書館の歴史2：日本の図書館			
	第7回	図書館の種類1：公共図書館			
	第8回	図書館の種類2：学校図書館			
	第9回	図書館の種類3：大学図書館			
	第10回	図書館の種類4：専門図書館			
	第11回	図書館の種類5：国立図書館			
	第12回	図書館員の役割1：概要			
	第13回	図書館員の役割2：種類別			
	第14回	図書館の類縁機関と利害関係者			
	第15回	図書館の今後とまとめ			
授業に対する予習・復習	予習：		復習： 各回内容のまとめ		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（72%）、課題（28%）				
教科書					
参考文献	『図書館概論』（塩見昇編著、日本図書館協会、2012年） 『図書館情報学基礎（シリーズ図書館情報学）』（根本彰編、東京大学出版会、2013年）				
注意事項	<p>国立国会図書館のウェブサイト『カレントアウェアネス・ポータル』を日常的に閲覧することが望ましいです。</p> <p>成績評価は、各コマの内容を要約した小課題と期末レポートで行います。前回分の小課題は次回の冒頭に回収します。期末レポートが適切な形式でない場合は採点対象外になります。</p>				

授業科目	図書館制度・経営論	単位数	2	担当教員	西巻悦子
講義の内容	図書館制度と図書館経営の意義、自治体行政のしくみと図書館業務、館長及び職員の職務と研修、サービス計画と評価、他図書館や関係機関との連携・協力等、図書館制度と図書館経営について解説し、具体的な業務の演習も行う。				
到達目標	図書館制度の意義を理解し、図書館が組織を効率的・効果的に運用し使命を達成しようとする過程に興味と関心をもって図書館を活用して学び続ける態度の涵養を目指す。				
授業計画	第1回	図書館における制度と経営 図書館制度・経営論を学ぶ必要性			
	第2回	図書館の制度 制度の定義・意義、図書館関係法規と図書館制度学習の意義			
	第3回	図書館をめぐる法 日本国憲法、教育基本法、社会教育法、生涯学習振興法、地方教育行政法、地方自治法、地方財政法、地方公務員法			
	第4回	法令の解説・図書館法 図書館法の構成と逐条解説			
	第5回	他館種の図書館に関連する法規 国会図書館法、学校図書館法、大学設置基準、地方自治法、身体障害者福祉法			
	第6回	子どもの読書活動および文字・活字文化の振興に関連する法規 制定に至る経緯と法律の内容			
	第7回	図書館サービスと経営に関する法律 著作権法・個人情報保護法と図書館			
	第8回	図書館政策 国の図書館政策と地方公共団体の図書館政策			
	第9回	図書館の公共性 公共性の概念と図書館経営			
	第10回	公共経営としての図書館経営 公共図書館のボランティア			
	第11回	図書館の組織と職員 図書館司書・図書館長			
	第12回	図書館の財政と予算 予算配分・確保・予算計画書演習			
	第13回	図書館計画とマーケティング 経営サイクルと図書館			
	第14回	図書館管理形態の多様化 指定管理者制度他			
	第15回	今後の図書館経営の課題 (まとめ)			
授業に対する予習・復習	予習： 教科書の該当箇所を予読しておくこと。		復習： コメントシートを提出すること。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 筆記試験（80%）、課題（10%）、授業態度（10%）				
教科書	『図書館制度・経営論』（糸賀雅児・葉袋秀樹・樹村房，2013.）				
参考文献	『図書館制度・経営論』（手嶋孝典、学文社，2013.）				
注意事項	課題やコメントシートは必ず提出すること。				

授業科目	図書館情報技術論	単位数	2	担当教員	小山 守恵
講義の内容	図書館業務に必要な基礎的な情報技術を修得するために、コンピュータの基礎、図書館業務システム、データベース、検索エンジン、電子資料、コンピュータシステム等、図書館業務とサービスにおける情報技術やインターネットの活用について解説する。				
到達目標	印刷資料からデジタルコンテンツまで、図書館で活用されているいろいろな情報技術への理解を深める。				
授業計画	第1回	ガイダンス 図書館情報技術の全体像			
	第2回	コンピュータとネットワークの基礎			
	第3回	情報技術と社会			
	第4回	図書館における情報技術の現状			
	第5回	図書館業務システムのしくみ			
	第6回	情報検索の基礎技術①			
	第7回	情報検索の基礎技術②			
	第8回	データベースの仕組み			
	第9回	検索エンジンの仕組み			
	第10回	電子資料			
	第11回	デジタルアーカイブ			
	第12回	情報システムの管理			
	第13回	図書館と著作権			
	第14回	これからの図書館			
	第15回	まとめ			
授業に対する予習・復習	予習： 毎回指示する。		復習： 毎回指示する。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（70%）、授業態度（30%）				
教科書	『ライブラリー図書館情報学3 図書館情報技術論』（日高昇治、学文社）				
参考文献	授業時に提示する。				
注意事項	講義中心ではあるが授業内容確認の演習を行うことがある。 全体の流れにより多少の変更がある。				

授業科目	図書館サービス概論	単位数	2	担当教員	矢代 寿寛
講義の内容	図書館サービスは、時代・社会の変化に伴って変化を続けています。サービスの全体像と各サービスの基礎を講じます。加えて、現在提供されているサービスがなぜ提供されるようになったのかという背景解説、提供されなくなったサービスについての経緯説明、今後提供が期待されるサービスについての検討を行います。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・利用可能な図書館サービスを理解する ・サービスの提供に必要な準備について理解する ・将来に渡り、図書館サービスを活用できるようになる 				
授業計画	第1回	履修案内、科目説明、図書館業務との関係			
	第2回	図書館サービスの外観			
	第3回	現代の図書館サービス			
	第4回	図書館サービスの変遷			
	第5回	図書館サービスの種類1：資料の提供			
	第6回	図書館サービスの種類2：情報の提供			
	第7回	図書館サービスの種類3：人材・場所の提供			
	第8回	図書館サービスの種類4：図書館ネットワーク			
	第9回	図書館サービスの種類5：特定利用者層向け1			
	第10回	図書館サービスの種類6：特定利用者層向け2			
	第11回	図書館サービスと法			
	第12回	図書館サービスと社会			
	第13回	図書館サービスと図書館員			
	第14回	図書館サービスでない情報サービス			
	第15回	図書館サービスの今後とまとめ			
授業に対する予習・復習	予習：		復習： 各回の内容まとめ		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（72%）、課題（28%）				
教科書					
参考文献	『図書館サービス概論（現代図書館情報学シリーズ4）』（宮部頼子編、樹村房、2012年）				
注意事項	<p>図書館以外の公共施設が提供しているサービスを改めて意識することが望ましいです。</p> <p>成績評価は、各コマの内容を要約した小課題と期末レポートで行います。前回分の小課題は次回の冒頭に回収します。期末レポートが適切な形式でない場合は採点対象外になります。</p>				

授業科目	情報サービス論	単位数	2	担当教員	矢代 寿寛
講義の内容	情報サービスは図書館サービスの一種です。サービスそのものだけでなく、情報についての考え方、人間の情報への関わり方といった周辺への解説も行います。情報サービスを提供するために必要な知識を獲得し、実践に役立ちます。サービスの提供だけでなく、サービスの利用を拡大するための知識についても学びます。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館サービスと情報サービスの違いを理解する ・ 情報サービスに関するさまざまな要素を理解する ・ 情報サービスの代表的存在であるレファレンスサービスと情報検索について理解する ・ 利用者ではなくサービス担当者としての視点を持つ 				
授業計画	第1回	履修案内、科目説明、図書館業務との関係			
	第2回	情報社会と図書館			
	第3回	図書館における情報サービス			
	第4回	情報行動1			
	第5回	情報行動2			
	第6回	情報行動と情報サービス			
	第7回	情報サービスの情報源			
	第8回	情報検索1			
	第9回	情報検索2			
	第10回	レファレンスサービス1			
	第11回	レファレンスサービス2			
	第12回	レファレンスサービス3			
	第13回	発信型情報サービス			
	第14回	利用教育			
	第15回	情報サービスの今後とまとめ			
授業に対する予習・復習	予習：		復習： 各コマの内容まとめ		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（72%）課題（28%）				
教科書	『情報サービス論（現代図書館情報学シリーズ5）』（山崎久道編、樹村房、2012年）				
参考文献	『情報サービス論及び演習（ライブラリー図書館情報学6）』（中西ほか著、学文社、2012年） 『検索エンジンはなぜ見つかるのか』（森大二郎著、日経BP、2011年） 『図書館に訊け！』（井上真琴著、筑摩書房、2004年）				
注意事項	「情報サービス演習」を履修する前提です。演習において技能の習得を遅滞なく行えるだけの理解度を最低限の目標とします。 成績評価は、各コマの内容を要約した小課題と期末レポートで行います。前回分の小課題は次回の冒頭に回収します。期末レポートが適切な形式でない場合は採点対象外になります。				

授業科目	児童サービス論	単位数	2	担当教員	西巻悦子
講義の内容	児童サービスの目的は子どもと人類の文化遺産の最も良いものである本とを結ぶことである。公共図書館の児童サービスと児童図書館の活動を中心に講義を進め、読者である子どもに提供する児童資料への理解を深め、選書に必要な知識を解説する。				
到達目標	読み聞かせ、ブックトーク、ストーリーテリングを実習し、子どもと本を結びつける技術の習得を目指す。				
授業計画	第1回	児童サービス論の概要 児童サービスの意義と目的			
	第2回	児童資料の種類 児童資料の類型について			
	第3回	児童図書館の歴史 東京子ども図書館と国際子ども図書館			
	第4回	児童図書資料のコレクション形成 ブックリストの作成			
	第5回	レビュースリップの作成 選書と資料情報の提供			
	第6回	子どもの発達と読書 読み聞かせのためのレディネス			
	第7回	児童サービスの諸活動1 フロアワークと絵本の読み聞かせ			
	第8回	児童サービスの諸活動2 お話会等の行事			
	第9回	児童サービスの諸活動3 ブックトーク選書と演習準備			
	第10回	児童サービスの諸活動4 ブックトーク演習			
	第11回	乳幼児サービス ブックスタート事業の展開と方法			
	第12回	ヤングアダルトサービス 意義と現状、具体的事例の検討			
	第13回	児童サービスの諸活動5 ストーリーテリングの実際			
	第14回	児童サービスのユニバーサルデザイン 特別支援の必要な子どもたちへのサービス、多文化サービス			
	第15回	地域協力と連携 学校図書館への支援・他機関との連携協力			
授業に対する予習・復習	予習： 教科書該当部分の予読しておくこと。		復習： コメントシートを提出すること。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 筆記試験（70%）、レポート（10%）、課題（10%）、実技（10%）				
教科書	『児童サービス論』（堀川照代編、日本図書館協会、2014.2.）				
参考文献	『児童図書館サービス論（新訂版）』（赤星隆子、荒井督子編著、理想社、2009.） 『児童サービス論（改訂版）』（佐藤涼子編、教育史料出版会、2011.）				
注意事項	課題やコメントシートは必ず提出すること。				

授業科目	情報サービス演習	単位数	2	担当教員	小山 守恵
講義の内容	図書館の持つ情報資源の特性を把握し、利用者に適切な回答を提供するための基礎知識と技術を習得する。情報入手のための情報源や情報サービスの設計、レファレンスコレクションの構築、発信型情報サービスなど、利用者の要求に対する回答処理の実践的な技術を学ぶ。				
到達目標	レファレンスライブラリアンとしての自覚を持ち、信頼性の高い情報サービスができるようにする。 レファレンスブック等の印刷資料を駆使できるようにする。 ネット上の情報源とレファレンスツールを利用・活用出来るようにする。 発信型情報サービスのための知識と技術を学び、演習を通して実践的な能力を身に付ける。 最終的に自分の力で回答までたどり着ける能力を付ける。				
授業計画	第1回	ガイダンス、情報サービスの意義	第16回	情報資源の評価 1	
	第2回	情報サービスの設計 1	第17回	情報資源の評価 2	
	第3回	情報サービスの設計 2	第18回	情報資源の評価 3	
	第4回	情報資源とレファレンスコレクション	第19回	情報資源の評価 4	
	第5回	情報探索行動 1	第20回	検索演習 2-1	
	第6回	情報探索行動 2	第21回	検索演習 2-2	
	第7回	情報探索行動 3	第22回	検索演習 2-3	
	第8回	情報資源の検索 1	第23回	検索演習 2-4	
	第9回	情報資源の検索 2	第24回	検索演習 2-5	
	第10回	情報資源の検索 3	第25回	検索演習 2-6	
	第11回	検索演習 1-1	第26回	発信型情報サービス 1	
	第12回	検索演習 1-2	第27回	発信型情報サービス 2	
	第13回	検索演習 1-3	第28回	発信型情報サービス 3	
	第14回	検索演習 1-4	第29回	発信型情報サービス 4	
	第15回	検索演習 1-5	第30回	情報サービスの評価 まとめ	
授業に対する予習・復習	予習：毎回指示するのでその指示に従うこと。		復習：毎回指示するのでその指示に従うこと。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 課題（50%）、授業態度（50%）				
教科書	『現代図書館情報学シリーズ7 情報サービス演習』（原田智子、樹村房）				
参考文献	授業時に提示する。				
注意事項	授業はPCと大学図書館蔵書のレファレンスブックを使用して行う。 レファレンスの解説と演習を行い、演習問題の記録をレポートとして作成してもらいが、質問に対する直接的な回答そのものを学習の主にするのではなく、その回答に至るまでの調査経過、使用したレファレンスツールの特徴や内容構成など、それらの理解を重要と考えている。全体の流れにより多少の変更がある。				

授業科目	図書館情報資源概論	単位数	2	担当教員	矢代 寿寛
講義の内容	現代の図書館には、図書・雑誌の他にも様々な形態の情報資源が存在します。また、図書館以外に存在する情報資源も利用されます。これらの生産、流通、収集、整理、公開、保存について総合的に概説します。情報資源の特性を理解し、適切な提供と利用のかたちについて知識を獲得することが目標になります。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の所蔵資料を理解する ・図書館の所蔵資料を使えるようになる ・情報資源の流通の仕組みを知り、収集や探索を行うことができるようになる ・収集・発見した情報資源を適切な権利のもとに提供することができるようになる 				
授業計画	第1回	履修案内、科目説明、図書館業務との関係			
	第2回	情報資源と図書館			
	第3回	情報資源の種類1：図書			
	第4回	情報資源の種類2：継続資料1			
	第5回	情報資源の種類3：継続資料2			
	第6回	情報資源の種類4：電子資料とネットワーク情報資源			
	第7回	情報資源の種類5：視聴覚資料			
	第8回	情報資源の種類6：その他			
	第9回	情報資源の流通1：紙媒体の流通			
	第10回	情報資源の流通2：電子媒体の流通			
	第11回	情報資源の収集			
	第12回	情報資源の公開			
	第13回	情報資源の保存			
	第14回	情報資源の権利			
	第15回	まとめ			
授業に対する予習・復習	予習：		復習： 各回の内容まとめ		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（72%）、課題（28%）				
教科書					
参考文献	『図書館情報資源概論』（馬場俊明編著、日本図書館協会、2012年） 『古本通：市場・探索・蔵書の魅力』（樽見博著、平凡社、2006年） 『学術情報流通と大学図書館』（日本図書館情報学会研究委員会編、勉誠出版、2008年） 『もうすぐ絶滅するという紙の書物について』（ウンベルト・エーコほか著、阪急コミュニケーションズ、2010年）				
注意事項	成績評価は、各コマの内容を要約した小課題と期末レポートで行います。前回分の小課題は次回の冒頭に回収します。期末レポートが適切な形式でない場合は採点対象外になります。				

授業科目	情報資源組織論	単位数	2	担当教員	矢代 寿寛
講義の内容	<p>情報資源は、組織化（≒整理）することで初めて効率的に利用者へ提供することができます。図書館における組織化の意義・理論・技術について、歴史を踏まえつつ概説します。さらに図書館以外での情報資源の組織化についても取り上げます。組織化の目的・意義を理解し、技術の基礎となる知識を獲得することを目標とします。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報資源の組織化の目的と意義を理解する ・ 情報資源の組織化の理論と技術を学び、情報資源の利用をより効率的に行えるようになる ・ 情報資源の組織化の理論と技術を学び、自らも組織化を行えるようになる ・ 組織化の最新動向を知る 				
授業計画	第1回	履修案内、科目説明、図書館業務との関係			
	第2回	情報資源組織化の目的・意義			
	第3回	組織化の理論			
	第4回	組織化の対象			
	第5回	組織化の規則			
	第6回	組織化の技術1：記述1			
	第7回	組織化の技術2：記述2			
	第8回	組織化の技術3：記述3			
	第9回	組織化の技術4：索引			
	第10回	組織化の技術5：主題1			
	第11回	組織化の技術6：主題2			
	第12回	組織化の技術7：主題3			
	第13回	類縁機関の組織化			
	第14回	組織化の新しい潮流			
	第15回	まとめ			
授業に対する予習・復習	予習：		復習： 各回のまとめ		
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 課題（100%）</p>				
教科書					
参考文献	<p>『情報資源組織論』（柴田正美著、日本図書館協会、2012年） 『情報資源組織論（現代図書館情報学シリーズ）』（田窪直規編、樹村房、2011年） 『情報資源組織論及び演習（ライブラリー図書館情報学）』（那須雅熙著、学文社、2012年）</p>				
注意事項	<p>「情報資源組織演習」の履修にはこの科目の単位習得が必要です。 成績評価は各回のまとめ課題と期末課題で行います。課題の形式は講義中に指定します。</p>				

授業科目	情報資源組織演習	単位数	2	担当教員	矢代 寿寛
講義の内容	「情報資源組織論」で学んだことを元に、様々な環境での組織化の仕組みを確認しながら、実際の情報資源を用いて演習を行います。組織化のための規則は、その効率化と効果を高めるために絶えることなく変更されていくので、特定の環境によらず、多種多様な情報資源を正確に記述・分類できる技術を獲得することが目標です。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・紙上での目録作成ができるようになる ・コンピュータでの目録作成ができるようになる ・メタデータの設計と作成ができるようになる 				
授業計画	第1回	履修案内、科目説明、図書館業務との関わり	第16回	コンピュータでの目録作成1：オリジナル1	
	第2回	目録規則の解説と実習1：図書の記述1	第17回	コンピュータでの目録作成2：オリジナル2	
	第3回	目録規則の解説と実習2：図書の記述2	第18回	コンピュータでの目録作成3：オリジナル3	
	第4回	目録規則の解説と実習3：図書の記述3	第19回	コンピュータでの目録作成4：コピー1	
	第5回	目録規則の解説と実習4：継続資料の記述1	第20回	コンピュータでの目録作成5：コピー2	
	第6回	目録規則の解説と実習5：継続資料の記述2	第21回	コンピュータでの目録作成6：コピー3	
	第7回	目録規則の解説と実習6：継続資料の記述3	第22回	目録の品質管理1：書誌同定と典拠	
	第8回	目録規則の解説と実習7：その他資料の記述	第23回	目録の品質管理2：評価と修正	
	第9回	件名の解説と実習1	第24回	メタデータの設計と作成1：メタデータの設計1	
	第10回	件名の解説と実習2	第25回	メタデータの設計と作成2：メタデータの設計2	
	第11回	件名の解説と実習3	第26回	メタデータの設計と作成3：メタデータの作成1	
	第12回	分類の解説と実習1	第27回	メタデータの設計と作成4：メタデータの作成2	
	第13回	分類の解説と実習2	第28回	メタデータの設計と作成5：メタデータのマッピング	
	第14回	分類の解説と実習3	第29回	メタデータの設計と作成6：メタデータ関連付け	
	第15回	記述、件名、分類のまとめ	第30回	メタデータの管理と公開	
授業に対する予習・復習	予習： 情報資源組織論の内容		復習：		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 課題（100%）				
教科書	『情報資源組織演習』（和中幹雄・山中秀夫編著、日本図書館協会、2014年）				
参考文献	『情報資源組織論及び演習』（那須雅熙著、学文社、2012年） 『情報資源組織法：資料組織法・改』（志保田務・高鷲忠美編著、第一法規、2012年） 『情報資源の組織化と提供』（根本彰・岸田和明編、東京大学出版会、2013年）				
注意事項	教科書以外に『日本目録規則1987年版改訂3版』『日本十進分類法新訂9版』『日本十進分類法新訂10版試案』『基本件名標目表第4版』『Web NDL Authorities』『NACSIS-CAT マニュアル』を利用します。目録作成ではコンピュータも利用します。文字入力やマウス操作といった基本的操作には予めある程度慣れておいて下さい。 課題の提出締め切りを過ぎた場合は評価対象外になります。				

授業科目	図書館基礎特論	単位数	1	担当教員	宮内 淳平
講義の内容	<p>図書館をめぐる近年の動向や諸課題についてテーマを取り上げ、幅広く図書館サービスについて考える。その際、具体的各種サービスについて他の図書館も含め実際図書館等を見学し、広く知識を収集し、また、その内容を比較検討し学習することをねらいとする。</p> <p>また、利用者対象別の各種図書館・専門図書館サービスの特徴について考えてみる。</p>				
到達目標	<p>1. 漢籍についての知識を修得する。</p> <p>2. 四角號碼索引の知識を修得する。</p> <p>3. 実際に四角號碼索引を使用してみる。</p>				
授業計画	第1回	図書館と社会の関係について			
	第2回	漢籍及び古典資料について			
	第3回	漢籍の分類について（中国の場合）			
	第4回	漢籍の分類について（日本の場合）			
	第5回	情報検索（1）四角號碼索引とは			
	第6回	情報検索（2）四角號碼索引の実際			
	第7回	情報検索（3）四角號碼索引の実際			
	第8回	図書館システム（専門図書館公立図書館と大学図書館）と図書館の施設			
	第9回				
	第10回				
	第11回				
	第12回				
	第13回				
	第14回				
	第15回				
授業に対する予習・復習	予習： 近隣の公共図書館・専門図書館を訪ねし、知識を深める。	復習：	『大漢和辞典』等に触れ、漢籍及び四角號碼索引に対する理解を深める。		
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない</p> <p>レポート（50%）、授業態度（50%）</p>				
教科書	使用しない。適宜プリント配布予定。				
参考文献					
注意事項					

授業科目	図書館サービス特論	単位数	1	担当教員	小山 守恵
講義の内容	図書館の諸問題について取り上げ、幅広く図書館サービスについて知識を深める。 図書館等の視察を行い各種別図書館サービスの特質を学習する。				
到達目標	各種図書館における情報サービスを理解する。				
授業計画	第1回	図書館サービスの提供 1 日本の図書館			
	第2回	図書館サービスの提供 2 諸外国の図書館			
	第3回	図書館サービスの提供 3 学校図書館			
	第4回	図書館における利用者教育と情報提供 1			
	第5回	図書館における利用者教育と情報提供 2			
	第6回	図書館サービスの現状 1			
	第7回	図書館サービスの現状 2			
	第8回	まとめ 図書館の役割と課題			
	第9回				
	第10回				
	第11回				
	第12回				
	第13回				
	第14回				
	第15回				
授業に対する予習・復習	予習：自主的に多くの図書館、関連教育施設を見学すること。		復習：毎回指示するのでその指示に従うこと。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（50%）、授業態度（50%）				
教科書	教科書は使用せず、授業関連資料を配布する。				
参考文献	授業時に提示する。				
注意事項	図書館等の視察を行いレポート作成・発表の予定。さらに、情報サービスの理解を深めるため演習を行う。 全体の流れにより多少の変更がある。 自主的に多くの図書館を見学して、図書館サービスの事例を調査することを望む。				

授業科目	図書館情報資源特論	単位数	1	担当教員	矢代 寿寛
講義の内容	図書館における専門資料について講じます。専門資料とは、広義には何らかの専門家が利用する資料、狭義には学術情報を指します。図書館を通じて専門資料を利用または提供することの現状と課題について概説します。学術分野ごとの主要な専門資料と、それを探索したり利用したりするための方法・ツールについて学びます。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門資料とそれ以外の特性の違いを理解する ・ 専門資料の特性に基づいた探索を行えるようになる ・ 専門資料の適切な利用を行えるようになる 				
授業計画	第1回	学術情報の概要			
	第2回	学術情報のメディア			
	第3回	学術情報の流通			
	第4回	学術情報の特徴：人文科学			
	第5回	学術情報の特徴：社会科学			
	第6回	学術情報の特徴：自然科学			
	第7回	学術情報の特徴：その他複合科学			
	第8回	まとめ			
	第9回				
	第10回				
	第11回				
	第12回				
	第13回				
	第14回				
	第15回				
授業に対する予習・復習	予習： 図書館情報資源概論の内容			復習：	
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（100%）				
教科書					
参考文献	『専門資料論 新訂版』（三浦逸雄編、日本図書館協会、2010年） 『科学技術コミュニケーション入門:科学・技術の現場と社会をつなぐ』（梶雅範ほか編、培風館、2009年）				
注意事項					

授業科目	図書・図書館史	単位数	1	担当教員	西巻悦子
講義の内容	図書をはじめとするメディアの形態，種類並びに流通の視点から解説する。そのうえで，世界と日本における図書館の発展について図書と図書館の社会的・科学的背景から解説する。				
到達目標	図書や図書館はどのように誕生し，どのような経緯で今のような形態に行き着いたのか，図書と図書館の歴史的な変遷を知ることがをねらいとする。				
授業計画	第1回	記録メディアの歴史 紙以前・紙・新しいメディア			
	第2回	世界の図書館の歴史 古代から中世まで			
	第3回	世界の図書館の歴史 近世から近代まで			
	第4回	日本の図書館の歴史 古代の図書館			
	第5回	日本の図書館の歴史 前近代の図書館			
	第6回	日本の図書館の歴史 近代から戦後改革まで			
	第7回	日本の図書館の歴史 戦後民主主義と図書館			
	第8回	現代の図書館 まとめ			
	第9回				
	第10回				
	第11回				
	第12回				
	第13回				
	第14回				
	第15回				
授業に対する予習・復習	予習： 教科書の該当箇所を予読しておく。		復習： コメントシートを提出する。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 筆記試験（90％）、授業態度（10％）				
教科書	『図書・図書館史』（小黒浩司編著、日本図書館協会、2013.）				
参考文献	『図書・図書館史』（佃一可、樹村房、2012.）				
注意事項					